

芸北神楽

神楽は神道の儀式で、民間伝承を再現したり、神々を称えるために演じられます。物語は舞や精巧な衣装、伝統音楽の使用を通じて語られます。会話にはそれほど重点が置かれず、パフォーマンスの視覚的な側面が重要視されます。

神楽は日本全国で様々な形で演じられます。芸北神楽は精巧なお面と明るい装飾を備え、広島県北西部特有の神楽で日本の神話に基づいています。安芸太田町は芸北神楽の中心地で、当地では15の団体が演じています。多くの住民が神楽に関わり、毎年秋の奉納神楽やお祭りのために定期的に練習しています。

神楽の上演では、英雄と悪者を明確に描いているものがあります。芸北神楽のある演目では、悪者が鬼として描写されています。この悪者は口の開いた龍のようなお面とよじれた長い髪のかつらをかぶっていました。長時間におよぶ戦いでは、どちらのキャラクターも互いにゆっくりと旋回するなか、太鼓、木製の笛、手に持ったシンバルの音が舞に合わせて速さを増していきました。パフォーマーたちは重さ20キロにもなる精巧な金筋の衣装をまっており、演目にドラマチックな効果が増していました。